

2026年10月1日

滞留水の貯蔵及び処理の状況概略

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

- ・建屋内滞留水水位は施設運用上の基準を満足

②1～4号機タンク貯蔵量

- ・淡水化装置による処理により、RO処理水(淡水)及び濃縮塩水の貯蔵量は変動あり
- ・蒸発濃縮装置は全台停止中

③5、6号機滞留水貯蔵量

- ・構内散水によりFエリアタンク貯蔵量は変動あり

④廃棄物発生量

- ・除染装置停止中のため、廃スラッジ貯蔵量は変動なし

①建屋内滞留水水位及び貯蔵量

施設	貯蔵量	T/B建屋内水位
1号機	約1,090 m ³	- (水抜き完了)
2号機	約1,190 m ³	- (水抜き完了)
3号機	約1,240 m ³	- (水抜き完了)
4号機	約10 m ³	- (水抜き完了)
合計	約3,530 m ³	

(合計)±240[m³/4週] (合計)±90[m³/週]

貯蔵施設	貯蔵量	水位
プロセス主建屋	約9,470 m ³	T.P.913
高温焼却炉建屋	約2,080 m ³	T.P.-523
合計	約11,550 m ³	

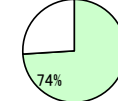
(合計)~200[m³/4週] (合計)~1730[m³/週]

施設	貯蔵量	貯蔵容量
廃液供給タンク	687 m ³	1,200 m ³
SPT(A)	406 m ³	3,100 m ³
SPT(B)	1,126 m ³	3,100 m ³
1号CST	620 m ³	1,600 m ³
2号CST	1,680 m ³	2,200 m ³
3号CST	1,405 m ³	2,200 m ³
パッファタンク	632 m ³	700 m ³

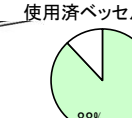
(合計)~118[m³/4週] (合計)~226[m³/週]

④廃棄物発生量

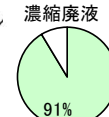
廃スラッジ



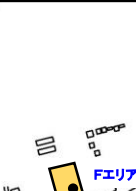
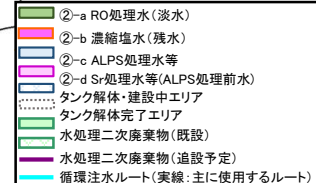
保管量:518/700[m³] ※3



保管量:6058/6884体 ※1

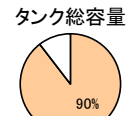


保管量:約9411/10300[m³] ※3
水位計0%以上の保管量:9311[m³]
タンク底部~水位計0%の保管量(DS):約100[m³]



水量:約7815/8400[m³] ※2,3
~25[m³/4週]/±0[m³/4週]
~145[m³/週]/±0[m³/週]

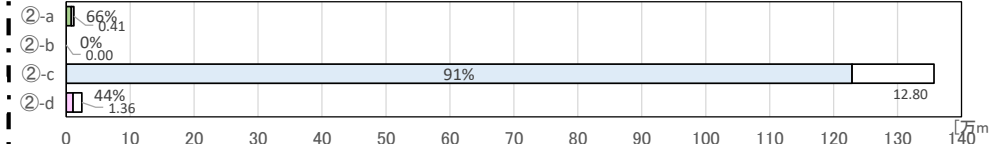
③5、6号機タンク貯蔵量



水量:約1255403/1401700[m³] ※2,3
~3184[m³/4週]/±0[m³/4週]
~4010[m³/週]/±0[m³/週]

タンク貯蔵量合計(②+③)

- ※1 第二セシウム吸着装置使用済ベッセル及び多核種除去設備の保管容器、処理カラム及びモバイル式処理装置使用済ベッセル含む
※2 装置稼働中につき水位が安定しないため参考扱い
※3 貯蔵容量は運用上の上限を示す(タンクの貯蔵容量は10の位を切り捨てて表記。端数処理上、水量の総和と異なる場合がある)
※4 多核種除去設備等(ホット試験中)の処理済水を貯蔵するが、タンクの運用状況に応じて淡水や濃縮塩水を貯蔵
※5 ウルポイント・地下水ドレン(約50m³/週)、その他移送量(約50m³/週)の合計約100m³/週を含む
(端数処理上、各移送量の総和と異なる場合がある)
※6 放射性物質濃度が高い多核種除去設備B系出口水を含む
※7 フランジ型タンクのタンク底部~水位計0%の水量(DS)は水位計0%以上の水量に含める



水量:約7941/12000[m³] ※2,3
水位計0%以上の水量:7841[m³]
タンク底部~水位計0%の水量(DS):約100[m³]

水量:約0/0[m³] ※2,3
水位計0%以上の水量:約0[m³]
タンク底部~水位計0%の水量(DS):約0[m³]

水量:約1228895/1356900[m³] ※2,3,4,6
水位計0%以上の水量:1226485[m³]
タンク底部~水位計0%の水量(DS):約2400[m³]

水量:約10752/24400[m³] ※2,3,7
水位計0%以上の水量:10552[m³]
タンク底部~水位計0%の水量(DS):約200[m³]

水量:約1247588/1393300[m³] ※2,3,4
水位計0%以上の水量:1244888[m³]
タンク底部~水位計0%の水量(DS):約2700[m³]

+607[m³/4週]/±0[m³/4週]
-643[m³/週]/±0[m³/週]

±0[m³/4週]/±0[m³/4週]
±0[m³/週]/±0[m³/週]

-5696[m³/4週]/±0[m³/4週]
-3310[m³/週]/±0[m³/週]

+1930[m³/4週]/±0[m³/4週]
+88[m³/週]/±0[m³/週]

-3159[m³/4週]/±0[m³/4週]
-3865[m³/週]/±0[m³/週]

②-a RO処理水(淡水)

②-b 濃縮塩水(残水)

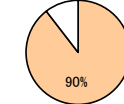
②-c ALPS処理水等

②-d Sr処理水等

(ALPS処理前水)

②1～4号機タンク貯蔵量

1～4号機タンク総容量



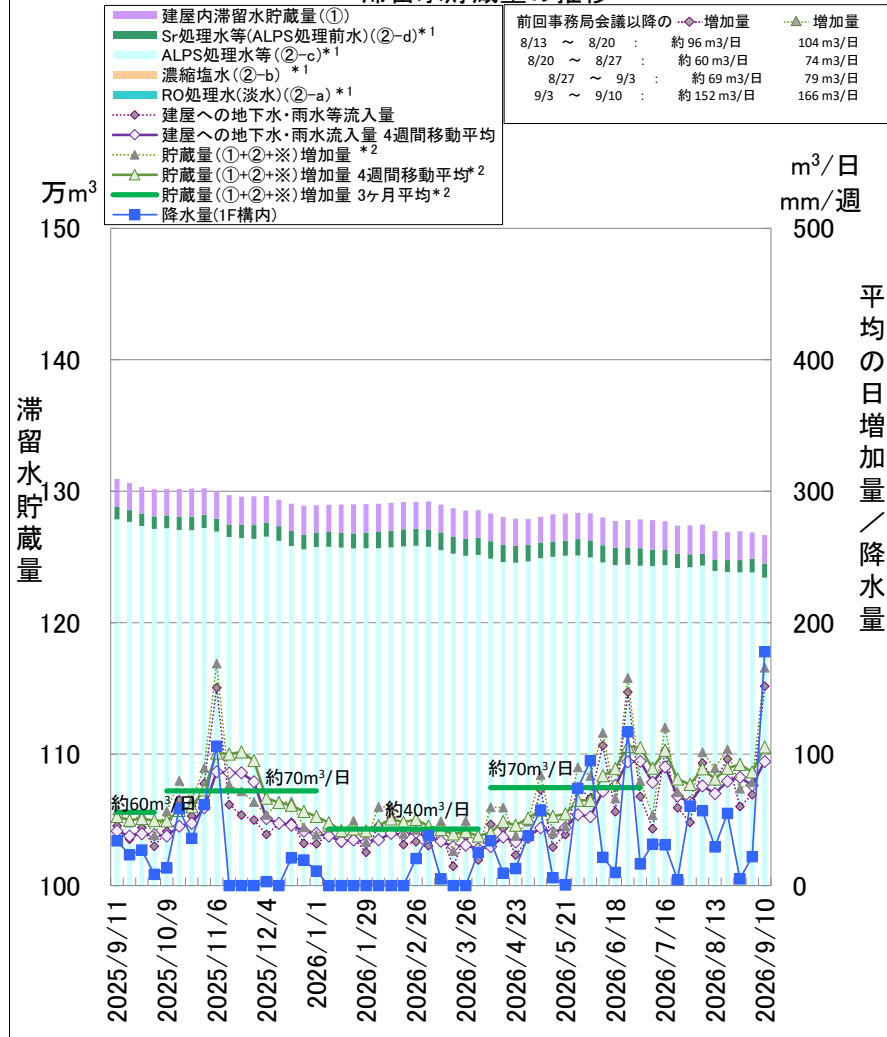
水量:約1269224[m³]

~3001[m³/4週] ※5
~2171[m³/週]

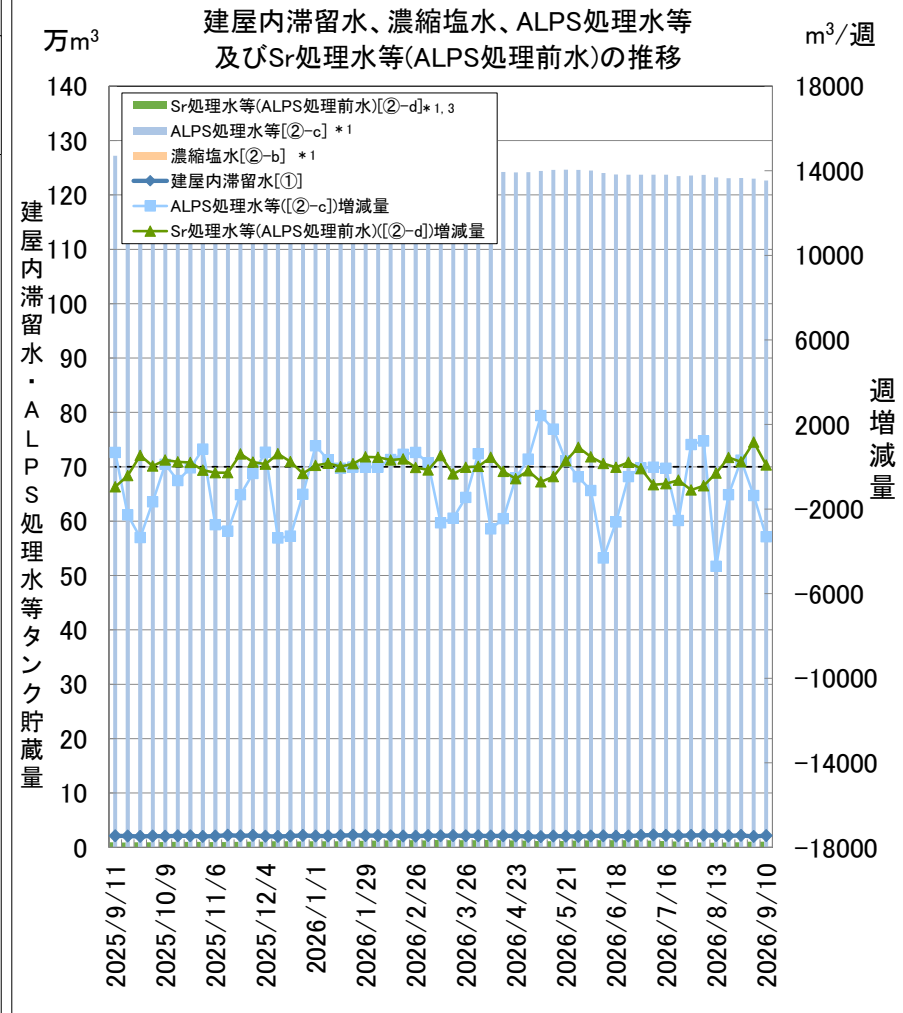
建屋内貯蔵量

+ 1～4号機タンク貯蔵量
(①+②)

滞留水貯蔵量の推移



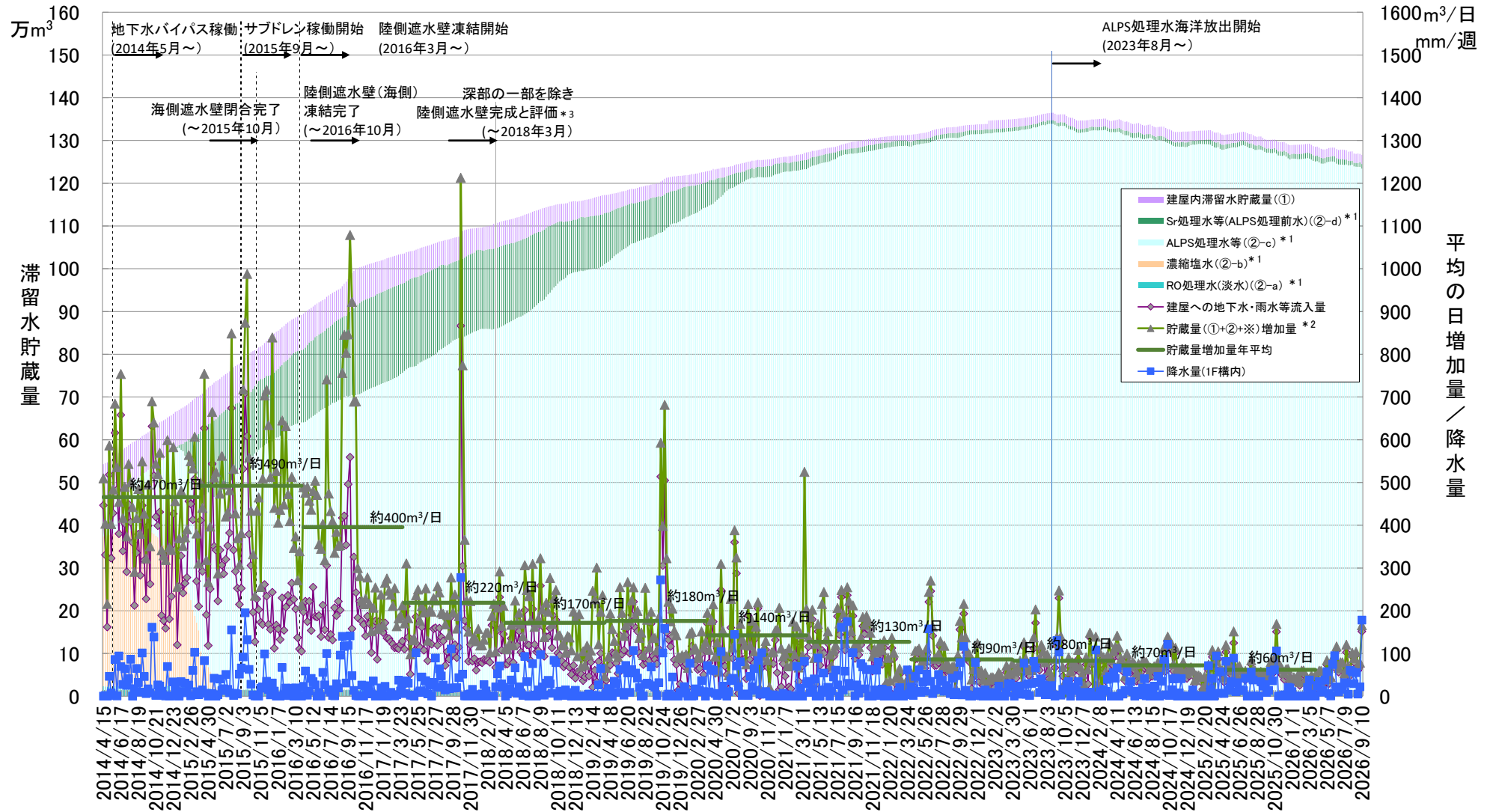
*3: 多核種除去設備のクロスフローフィルタの詰まり等に伴う設備稼働状況によりSr処理水等の処理量が増減



設備	期間処理量 ^{注1,4)}		定格処理量
	[m ³ /週] ^{注2)}	[m ³ /4週]	
既設多核種除去設備	0	109	750以上
増設多核種除去設備	53	152	750以上
高性能多核種除去設備	0	0	400以上
高性能 検証試験装置	0	0	50
合計	53	261	

注4)設備の出口積算流量計を基に算出

滞留水の貯蔵状況の推移(長期グラフ)



①: 建屋内滞留水貯蔵量(1～4号機、プロセス主建屋、高温焼却炉建屋、廃液供給タンク、SPT(A)、SPT(B)、1～3号機CST、バッファタンク)

②: 1～4号機タンク貯蔵量

(〔②-aRO処理水(淡水)〕+〔②-b濃縮塩水〕+〔②-cALPS処理水等〕+〔②-dSr処理水等(ALPS処理前水)〕)

※: タンク底部から水位計0%までの水量(DS)

*1: 水位計0%以上の水量

*2: 汚染水発生量の算出方法で算出 [(建屋への地下水・雨水等流入量)+(その他移送量)+(ALPS薬液注入量)], ALPS処理水の放出量は加味していない

*3: 深部未凍結箇所3箇所については、2018年9月までに凍結完了